

環境水道委員会 行政視察結果

1 日 程 令和元年11月11日（月）～13日（水）

2 視察内容

視察先・概要	視察内容
<p>東京都荒川区：永久水利施設整備事業について</p> <p>同区では、首都直下型地震発生時に上水道の6割近くが断水する恐れがあるとして、震災時に枯渇しない水源（永久水利）を確保し、火災の初期消火や延焼の防止を図っている。その取り組みを本市の防災事業の参考にする。</p>	<p>荒川区は、区内の6割が木造住宅密集地域であり、火災危険度ランクの高い地区が多いため、初期消火や延焼防止が極めて重要である。震災時に求められる長時間の消火活動に対応するため、上水道に頼らない防火水槽への継続的な充水手段の確保が重要であり、永久水利施設を整備している。</p>
<p>環境省：環境分野における国のSDGsの推進の取り組みについて</p> <p>環境分野における国のSDGs推進の取り組みについて視察し、本市の環境分野におけるSDGs推進の参考とする。</p>	<p>世界の異常気象により、脱炭素化に向けて大きく考え方を転換（パラダイムシフト）していくことが必要。持続可能な社会に向けたパラダイムシフトにより、我が国が抱える環境・経済・社会の課題の同時解決が求められる。そのため第五次環境基本計画の基本的方向性では、「地域循環共生圏」の創造、「世界の範となる日本」の確立を通じた持続可能な循環共生型の社会の実現を目指すべき社会の姿としている。</p> <p>温暖化対策は企業にとって潜在的な巨大マーケットであり、脱炭素経営がもたらすビジネス革命を促すパラダイム転換が求められている。</p>
<p>埼玉県所沢市：マチごとエコタウン所沢の取り組み</p> <p>同市の環境分野の取り組みは、日経グローバルが持続可能性の観点から独自に実施したSDGs先進度の調査における環境分野でトップとなった。電気自動車など次世代自動車の購入に助成しているほか、充電設備を自ら整備し、充電設備への助成制度も設けるなどの取り組みが評価されており本市の参考とする。</p>	<p>エコカー（電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車）及びエコカー充電設備の補助金や、太陽光発電システム、蓄電池などのスマートエネルギー補助金（家庭用、事業者用、自治会・町内会、管理組合用）の運用状況とそれによるCO₂削減実績を調査。</p> <p>また、エネルギー政策として、地域新電力会社「(株)ところざわ未来電力」を設立し、環境にやさしい電力の供給に取り組んでいる。</p>
<p>東京都：水素社会の実現に向けた東京2020オリンピック・パラリンピックでの水素エネルギーの活用</p> <p>都では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、会場への輸送や選手村等において水素エネルギーを活用することで日本の高い技術力をアピールするなどして、環境先進都市のモデルとなるまちの実現を目指している。本市の水素タウン実証・PR事業でも東京都との連携によるPRを図ることとしており本市の参考とする。</p>	<p>①水素ステーションに対する集中的な財源投入等により整備を促進、②燃料電池自動車、燃料電池バスの普及のため財政支援を行い初期需要を創出、③コストダウン、ダウンサイジングを通じて家庭用や業務・産業用燃料電池の自律的な普及を目指す、④都民の理解促進に向け、水素エネルギーの意義、安全性・リスク等の情報提供を「水素情報館・東京スイソミル」等で実施、⑤事業所向けに再生可能エネルギー由来水素活用設備の導入を促進、⑥東京2020大会選手村地区での水素活用、などの事業を実施。</p>